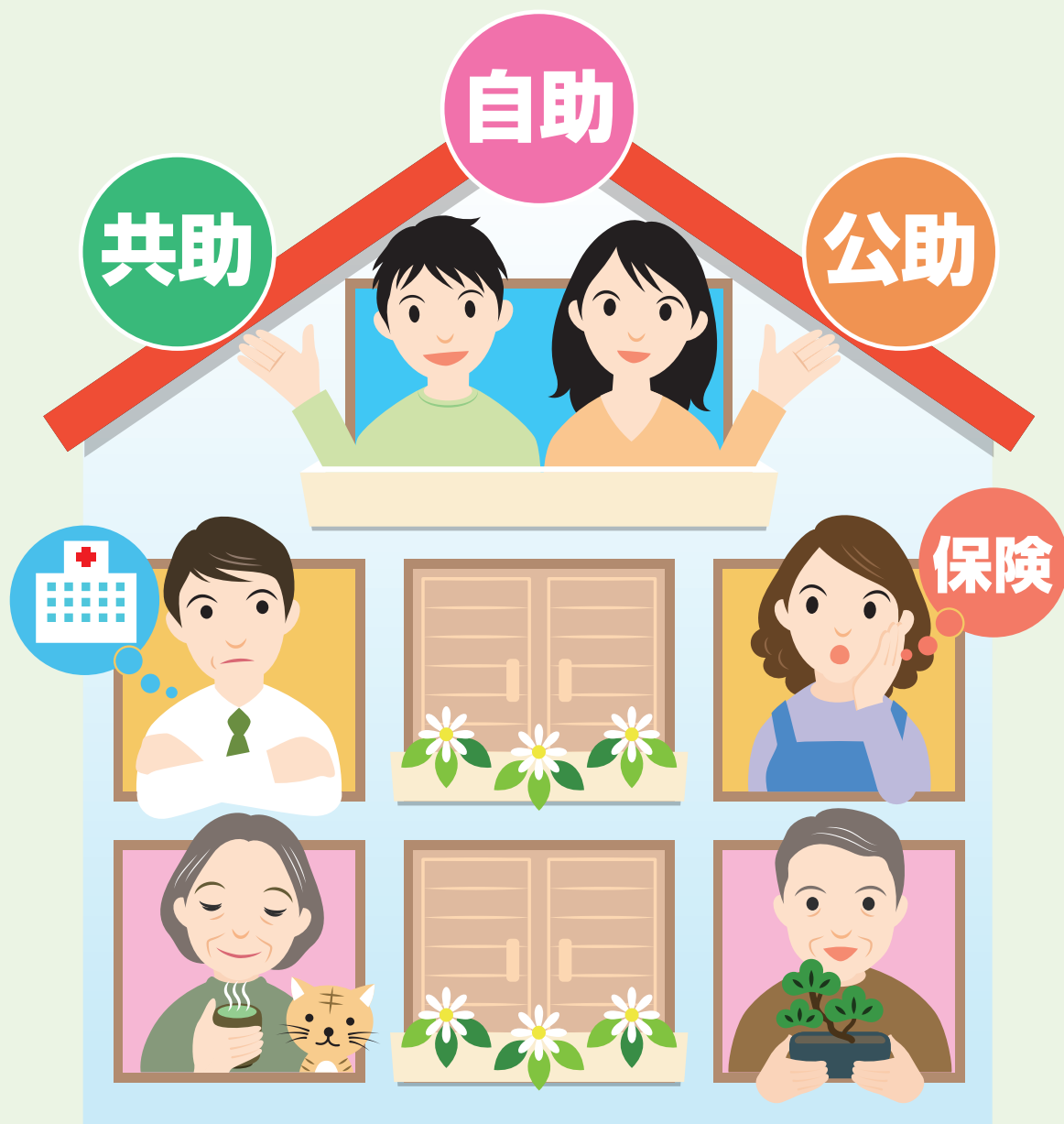


高等学校公民科向け教材

社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！

教材活用マニュアル

(教師用手引き)



一般社団法人

生命保険協会

高等学校の先生や文部科学省・厚生労働省の
ご意見を伺いながら作成した教材です

社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！

教材活用マニュアル（教師用手引き）

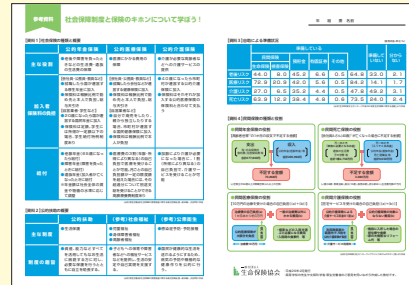
本教材のポイント

✓ 50分の授業で完結する教材（ワークシートと参考資料から構成）

〈ワークシート〉



〈参考資料〉



✓ 社会保障制度を学ぶ際に、以下についても併せて学べる教材

- 社会保険や民間保険で使用されている「保険」の仕組み
- 少子高齢化が進む中で社会保障制度の持続可能性を確保していくためには自助・共助・公助の組み合わせが必要であること
- 自助の一つの手段として民間保険があること

現在、持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革が進められていますが、少子高齢社会が急速に進む中で社会保障制度を維持していくためには自助・共助・公助を最も適切に組み合わせていくことが必要であることを踏まえ、次世代を担う子供たちには、社会保障制度について学ぶ際に、自助努力で将来に備えていくことの重要性についても認識してもらうことが重要であります。

生命保険協会では、社会保障・保険教育教材に関する検討会を開催し、高等学校の先生や文部科学省・厚生労働省のご意見を伺いながら、高等学校公民科向けの社会保障・保険教育教材を作成いたしましたのでご活用いただければと存じます。

目次

1. 解説

【ワークシート】

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | リスクを考えよう | 3 |
| 2 | 社会保険と公的扶助 | 3 |
| 3 | 社会保障制度の財源 | 4 |
| 4 | 自助と民間保険 | 4 |

【参考資料】

- | | | |
|-----|------------|---|
| 資料1 | 社会保険の種類と概要 | 5 |
| 資料2 | 公的扶助の概要 | 5 |
| 資料3 | 自助による準備状況 | 6 |
| 資料4 | 民間保険の種類と役割 | 6 |

2. 学習指導案

解説（ワークシート）

発問例

明日の天気予報では、雨の確率は40%ですが、あなたは出かけるときに、もし雨が降った場合に濡れないように傘を持っていますか、それとも、雨は降らないと思い傘は持っていきませんか。

・「傘を持っていく」人はリスクに備える人と言えます。私たちの人生には病気や失業など様々なリスクがありますが、それに備えるための「傘」となるのが、社会全体で助け合い・支え合う仕組みである「社会保障制度」です。⇒【補足①】

【補足①】

「リスク」とは、「望ましくないことが発生する可能性」のことを言いますが、この質問では、「雨が降って濡れてしまう可能性」が「リスク」、「傘」が「リスクに備える手段」となります。

ワークシート 社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！

1 リスクを考えよう

●明日の天気予報、雨の確率は40%です。あなたは出かけるときに、もし雨が降った場合に濡れないように傘を持っていますか？それとも、雨は降らないと思い傘は持っていきませんか？

()傘を持っていく ()傘を持っていきません

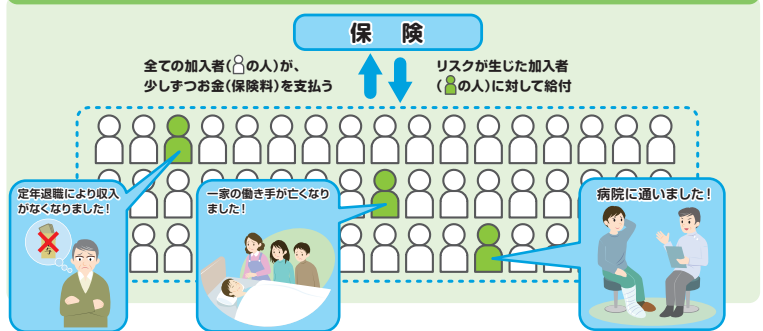
私たちの人生には、自分や家族の病気、障害、失業、死亡など様々なリスクが潜んでいます。このような、個人の力だけでは備えることに限界がある生活上のリスクに対して、幾世代にもわたる社会全体で助け合い、支えようとする仕組みが**社会保障制度**です。

2 社会保険と公的扶助

社会保険

社会保障制度の中心となる「**社会保険**」は、「保険」の仕組みを使った制度です。「保険」により給付を受けるためには事前に保険料を支払っておく必要があり、支払っていない場合には、給付を受けることができない仕組みになっています。「社会保険」では、保険料は、賃金などに応じて支払うことになっており、会社員(会社に勤めている人)などが加入する「社会保険」では、会社(事業主)も保険料を支払う仕組みとなっています。「社会保険」の給付は加入者の「保険料」により賄われますが、一部、税金も投入されています(【参考資料】[資料1])。

「保険」の仕組みとは？



公的扶助

公的扶助制度は、生活に困窮する人々に対して、最低限度の生活を保障し、自立を助けようとする制度であり、税金により賄われています。この制度が憲法で定める生存権を最終的に保障しており、「社会保障の最後のセーフティネット」と言われています(【参考資料】[資料2])。

発問例

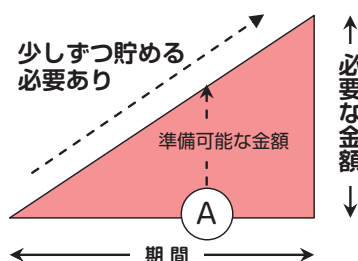
「保険」とは何でしょう。また、「保険」がなかったら、リスクに対する備えはどうしたらいいでしょうか。

・「保険」では、図の全ての加入者が、事前に少しずつお金を支払います。その支払うお金は「保険料」と言います。
・加入者にリスクが生じた場合には、「保険」からお金が給付されます。例えば、この図では、「定年退職により収入がなくなった」場合、「一家の働き手が亡くなった」場合、「病院に通った」場合にお金が給付されます。これが「保険」の仕組みです。⇒【補足②】

【補足②】「貯蓄」と「保険」の違い

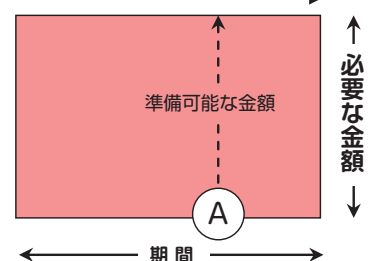
・「保険」の仕組みがなければ、リスクに備えるために、貯蓄でお金を貯める必要があります。
・貯蓄は、貯めた金額はいつでも自由に使うことができますが、右図のAの時点で急にリスクが生じた場合に、まだお金を少しずつ貯めている途中であるため必要な金額が準備できません。
・一方で、保険では、保険料を支払う必要があり、リスクが生じなければお金を受けることはできませんが、保険に加入している期間中であればリスクが生じた場合に必要な金額を準備できます。

【貯蓄】



【保険】

リスクが生じた場合に必要な金額を準備可能



発問例

みなさんがお年寄りになったら、年金はどれくらいもらえるでしょうか？

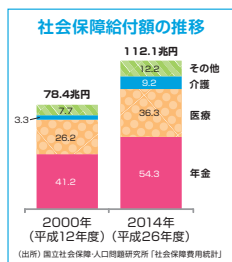
- ・公的年金の給付は現役世代の収入の約6割程度（平均的な収入の会社員の夫と専業主婦の妻の世帯（モデル世帯）の場合）と試算されています。年金額は、賃金物価、人口の変化に応じて増減することになっています。⇒【補足③】
- 公的年金は老後所得における中心的な役割を果たしつつ、制度の持続可能性のためには自助の重要性も高まっていくものと考えられます。

③ 社会保障制度の財源

社会保障制度は社会全体で助け合い、支えようとする仕組みですが、財源のことを無視することはできません。急速に進む少子高齢化に直面している日本では、どのようなことを考えなければならないのでしょうか。例えば、現在の公的年金制度は、現役世代の保険料の負担が重くなりすぎないようにしています。具体的には、現役世代の支払う国民年金や厚生年金の保険料に上限（平成29年以降は固定）を設けています。

保険料に上限が定められた以上、その総額の範囲内で給付することになります。「負担」と「給付」のバランスを図ることが、今まで以上に必要となるため、自助・共助・公助のそれぞれを理解し、考えていくことが重要になります。

年 組 番 名前

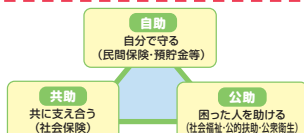


自助・共助・公助

日本の社会保障制度は、自らが働いて自らの生活を支え、自らの健康は自ら維持するという「自助」を基本としながら、高齢や疾病・介護を始めとする生活上のリスクに対しては、社会連帯の精神に基づき、共同してリスクに備える仕組みである「共助」が自助を支え、自助や共助では対応できない困窮などの状況については、受給要件を定めた上で必要な生活保障を行う公的扶助や社会福祉などの「公助」が補完する仕組みとするものです。(社会保障制度国民会議報告書(平成25年8月6日)より)

④ 自助と民間保険

「自助」の手段の中には、預貯金、民間保険、有価証券等も含まれますが、生命保険会社等が提供する「民間保険」では、リスクが生じた場合にあらかじめ生命保険会社等と契約した金額が支払われます。「民間保険」は、「社会保険」と同じ「保険」の仕組みを使っていますが、「社会保険」とは異なり、個人が必要であると判断した場合に加入し、また、保険料は、加入者のリスク(健康状態や年齢等)に応じて設定されます。「民間保険」には、「民間年金保険」・「民間医療保険」・「民間介護保険」・「民間死亡保険」など「社会保険」と同様の多様なリスクをカバーする商品があります(参考資料【資料3】・【資料4】)。



政府は、社会保障制度の持続可能性を確保するために、社会保障の負担と給付の見直しについて検討を進めていますが、私たちは、「自助」・「共助」・「公助」を適切に組み合わせていくことも考える必要があります。

課題 皆さんは、持続可能な社会保障制度を形成する上で、「自助」・「共助」・「公助」をどのような割合で組み合わせることが望ましいと思いますか。また、なぜそのような割合が望ましいと考えたのですか。「老後の生活費の準備」をイメージして考えてみましょう。

解 答 欄

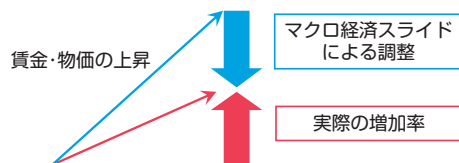


一般社団法人
生命保険協会

・平成29年2月発行
・高等学校の先生や文部科学省・厚生労働省のご意見を伺いながら作成した教材です。

【補足③】

年金額は、賃金や物価が上昇すると増えていきますが、現役世代の負担能力に見合うよう自動的に調整する（賃金や物価が上昇するほどは増やさない）仕組み（マクロ経済スライド）が導入されています（ただし、給付が際限なく引き下がらないよう、現役世代の平均収入の5割（モデル世帯の場合）を上回るようになっています）。



発問例

民間の保険はどのような役割を果たしているのでしょうか？

- ・生活のリスクの備えに対する人々のニーズは多様であり、民間保険はそれぞれのニーズに対して自助を充実させる役割を果たしています(参考資料【資料4】参照)

発問例

どのような考え方が良いか話し合ってみましょう。

例えば、以下のような考え方があります（アンケート結果も説明）。⇒【補足④】

Aさん (自助重視) 保険料に上限が定められ、その総額の範囲で給付されることになったよね。老後に充実した生活をするには、「自助」の割合を大きくするべきだね。

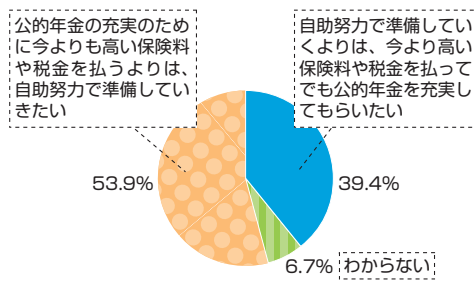
Bさん (自助重視) 国の支出はどんどん増えているよね。年金制度がずっと続くためには共助ばかりに頼らず自助を充実させる方がいいと思うよ。

Cさん (共助重視) みんなが老後のために計画的に準備をできるわけではないと思うから、保険料が高くなってもいいから公的年金を充実させるべきよ。

Dさん (公助重視) 所得格差が問題となっているよね。所得が低い人でも、老後に最低限の生活が保障される必要はあるから、税が高くなっても仕方ないよね。

【補足④】 アンケート調査結果

Q. あなたはどちらの考え方ですか？



解説（参考資料）

解説

2階

厚生年金（※）
（老齢厚生年金）

1階

国民年金（老齢基礎年金）

（自営業者・学生・専業主婦など）（会社員・公務員・教員など）

（※）厚生年金に加入すれば、国民年金にも自動的に加入することになる。

	【会社員・公務員・教員など】	【自営業者・学生・専業主婦など】
制度	厚生年金	国民年金
保険料	月給・賞与の9.091%（平成28年9月～）（同額を勤め先が負担）	月16,260円（平成28年度）（会社員に扶養される専業主婦は負担なし）
加入期間	在職中（最長70歳まで）	原則20歳～60歳
老齢年金	年間150万円～250万円くらいが多い	最高年間78.01万円（平成27年度価格）
障害年金	病気やケガで所定の障害を負ったときに給付	
遺族年金	加入者に生計を維持されていた遺族に給付	

（出所）生命保険文化センターウェブサイトを参考に作成

解説

学生納付特例制度

- 所得が一定以下の学生が、市区町村等に申請して認められれば、在学中の国民年金の保険料の納付を猶予され、社会人になってから納付することができる制度
- 学生納付特例期間中に障害年金や遺族年金を受け取ることが可能
- 学生納付特例期間は、将来老齢年金を受け取る加入期間には反映されるが、年金額には反映されない（社会人になってから納付する必要あり）

（出所）日本年金機構ウェブサイトを参考に作成

解説

公的医療保険の自己負担割合

	自己負担
小学校入学前（*1）	2割
小学校入学後～69歳	3割
70～74歳（*2）（*3）	2割
75歳以上（*3）	1割

- （*1）市町村によっては、小（中・高等）学校卒業まで自己負担分の補助あり
 （*2）昭和19年4月1日以前生まれの人は1割負担
 （*3）現役並み所得者は3割負担
 （出所）生命保険文化センターウェブサイトを参考に作成

参考資料

社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！

【資料1】社会保険の種類と概要

	公的年金保険	公的医療保険	公的介護保険
主な役割	●老後や障害を負ったときなどの生活費・遺族の生活費の保障	●医療にかかる費用の保障	●介護が必要な高齢者などへの介護サービスの提供
加入者 保険料の負担	【会社員・公務員・教員など】 ●就職したら国が運営する厚生年金に加入 ●保険料は報酬比例で勤め先と本人で負担。給与天引き 【自営業者・学生など】 ●20歳になったら国が運営する国民年金に加入 ●保険料は定額。学生には所得が一定額以下の場合、学生納付特例制度あり	【会社員・公務員・教員など】 ●就職したら会社などが運営する健康保険に加入 ●保険料は報酬比例で勤め先と本人で負担。給与天引き 【自営業者など】 ●自分で商売をしたり、親から独立したりする場合、市町村が運営する国民健康保険に加入 ●保険料は報酬比例で本人が負担	●40歳になったら市町村が運営する公的介護保険に加入 ●保険料はそれぞれが加入する公的医療保険の保険料と合わせて支払う
給付	●老齢年金（65歳になったら給付） ●障害年金（障害を負ったときに給付） ●遺族年金（加入者が亡くなったときに給付） ※年金額は社会全体の賃金や物価の水準に応じて調整	●医療費の3割（年齢・所得により異なる）の自己負担で医療を受けることが可能。月ごとの自己負担額が一定の限度額を超えた場合には、その超過分について別途支給を受けることができる高額療養費制度あり	●加齢により介護が必要になった場合に、1割（所得により異なる）の自己負担で、介護サービスを受けることが可能

（出所）厚生労働省「社会保険の教育推進に関する検討会報告書～資料編～」を参考に作成

【資料2】公的扶助の概要

	公的扶助	（参考）社会福祉	（参考）公衆衛生
主な制度	●生活保護	●児童福祉 ●身体障害者福祉 ●高齢者福祉	●感染症予防・予防接種
制度の趣旨	●資産、能力などすべてを活用してもなお生活に困窮する方に対し、必要な保護を行うとともに自立を助長する。	●子どもへの保育や障害者などへの福祉サービスなどを提供し、生活の安定や自己実現を支援する。	●国民が健康的な生活を送れるようにするため、病気の予防や積極的な健康作りを公的に行う。

（出所）厚生労働省「社会保険の教育推進に関する検討会報告書～資料編～」を参考に作成

解説

社会保険には、公的年金保険・公的医療保険・公的介護保険の他に、労災保険や雇用保険がある。

労災保険	雇用保険
○労働者が業務上の事由又は通勤によって負傷したり、病気に見舞われたり、あるいは不幸にも死亡された場合に被災労働者や遺族を保護するため必要な保険給付を行う。 ○労働者の社会復帰等を図るための事業も行う。	○労働者が失業した場合及び労働者について雇用の継続が困難となる事由が生じた場合に、労働者の生活及び雇用の安定を図るとともに、再就職を促進するため必要な給付を行う。 ○失業の予防、雇用構造の改善等を図るための事業も行う。

（出所）厚生労働省ウェブサイト「労災保険・雇用保険の特徴」を参考に作成

解説

<民間保険の種類>

種類	概要
民間年金保険	予め決められた年齢になると決められた期間 お金（年金）を受け取る。 (例) 個人年金保険
民間医療保険	病気やケガにより入院や手術をするとお金 (給付金)を受け取る。 (例) 医療保険、がん保険、特定疾病保険
民間介護保険	介護状態になるとお金(給付金)を受け取る。 (例) 介護保険
民間死亡保険	万が一亡くなった場合に、遺族の生活費等と してお金(保険金)を受け取る。 (例) 定期保険、養老保険、終身保険

<生命保険の加入状況(世帯毎の加入状況)>

項目	内容
加入率	89.2%
加入件数	3.8件
加入死亡保険金額	2,423万円
加入年金年額	101.0万円
疾病入院給付金日額	9,600円
年間払込保険料	38.5万円

(出所) 生命保険文化センター「平成27年度生命保険に関する全国実態調査」より作成

年 組 番 名 前

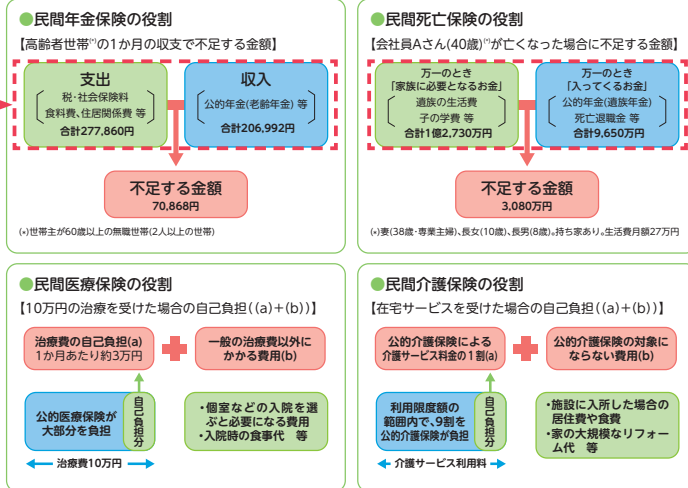
【資料3】自助による準備状況

(複数回答、単位：%)

	準備している						準備して いない	分から ない
	民間保険		預貯金	有価証券	その他			
	生命保険	損害保険						
老後リスク	44.0	8.0	45.2	6.6	0.5	64.8	33.0	2.1
医療リスク	72.9	20.9	42.0	5.6	0.5	84.2	14.1	1.7
介護リスク	27.0	6.5	35.2	4.4	0.5	47.8	49.2	3.1
死亡リスク	63.9	12.2	38.4	4.8	0.6	73.5	24.0	2.4

(出所) 生命保険文化センター「平成28年度生活保障に関する調査」より作成

【資料4】民間保険の種類と役割



一般社団法人
生命保険協会

平成29年2月発行
高等学校の先生や文部科学省・厚生労働省のご意見を伺いながら作成した教材です。

解説

【「家族に必要となるお金」の内訳】

遺族の生活費……………	9,070万円
学費(長女・長男)…………	2,060万円
その他(結婚資金・住居の修繕費等) ……	1,600万円
合計……………	1億2,730万円

【万が一のとき「入ってくるお金」の内訳】

公的年金……………	6,450万円
死亡退職金等……………	400万円
自己資産(預貯金等)……………	600万円
その他(妻の勤労収入等) ……	2,200万円
合計……………	9,650万円

解説

【支出の内訳】

税・社会保険料等……………	30,609円
食料費……………	65,439円
交通・通信費……………	28,904円
光熱・水道費……………	23,180円
住居費……………	15,673円
保健医療費……………	14,870円
その他……………	99,185円
合計……………	277,860円

【収入の内訳】

公的年金等の社会保障給付 ……	173,371円
その他……………	33,621円
合計……………	206,992円

学習指導案（50分）

＜学習指導要領上の位置付け＞

学習指導要領（公民科）	学習指導要領解説 公民編	備考
第1 現代社会 2 内容 (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 Ⅰ 現代の経済社会と経済活動の在り方 現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。	「社会保障」については、疾病や出産、障害、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を通して理解させる。またその際、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察させる。	※平成24年8月に成立した社会保障制度改革推進法では、少子高齢化が急速に進む中での社会保障制度改革の基本的な考え方の一つとして「自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるよう留意しつつ、国民が自立した生活を営むことができるよう、家族相互及び国民相互の助け合いの仕組みを通じてその実現を支援していくこと」が定められている。

※「現代社会」で使用することを想定した教材であるが、「政治・経済」で使用することも可能である。

＜本時の目標＞

- 社会保障制度の基本的な知識を理解させる。
- 少子高齢化が進む中で社会保障制度の持続可能性を確保していくためには自助・共助・公助の組み合わせが必要であること、および、自助の一つの手段として民間保険があることを認識させる。
- 持続可能な社会保障制度を確保する上で、自助・共助・公助のどのような組み合わせが望ましいか考察させる。

＜評価規準＞

- 社会保障制度の基本的な知識を理解する（知識・理解）。
- 社会保障制度には、自助・共助・公助という考え方があることを理解する（知識・理解）。
- 少子高齢化が進む中で社会保障制度の持続可能性を確保していくために、どのような自助・共助・公助の組み合わせがよいか考察し、自らの意見を積極的に発表する（思考・判断・表現）。

＜展開例＞

段階	時間	学習内容（○）・学習活動（☆）	指導上の留意点（□）
導入	5分	【1 リスクを考えよう】 明日の天気予報、雨の確率は40%です。あなたは出かけるときに、もし雨が降った場合に濡れないよう傘を持っていますか？それとも、雨は降らないと思い傘は持っていきませんか？ ○上記の質問を通じて、リスクとは何か・リスクに対する備えについて理解した上で、人生には様々なリスクがあり、当該リスクに備える仕組みとして「社会保障制度」があることについて理解する。 ☆上記の質問への回答を記入し、どちらの回答にしたか挙手したり、回答を選んだ理由について発表したりする。	□「リスク」とは「望ましくないことが発生する可能性」であることを説明した上で、社会保障制度が「人生の様々なリスクに対して、社会全体で助け合い、支えようとする仕組み」であることを理解させる。
展開1	10分	【2 社会保険と公的扶助】 ○社会保障制度の中心となる「社会保険」と社会保障制度の最後のセーフティネットである「公的扶助」の基本的な仕組みについて理解する。 【社会保険】 ○「社会保険」は「保険」の仕組みを使った制度であること、および、「保険」の仕組みについて理解する。	□本教材活用マニュアル P3【補足②】を参考に、貯蓄と保険の違いを理解させる。

段階	時間	学習内容 (○)・学習活動 (☆)	指導上の留意点 (□)
		☆「『保険』の仕組みとは？」の図も確認しながら、学習する。 <発問例> 「保険」とは何でしょうか。また、「保険」がなかったら、リスクに対する備えはどうしたらいいでしょうか。 【公的扶助】 ○「公的扶助」の基本的な仕組みについて理解する。 ☆「参考資料【資料2】」も確認しながら、「公的扶助」について学習する。	
展開2	5分	【3 社会保障制度の財源】 ○急速に進む少子高齢化に直面している日本では、社会保障制度の財源問題が課題であり、社会保障制度の持続可能性を確保するためには、自助・共助・公助のそれぞれについて理解し考えていくことが重要であることを理解する。 ☆社会保障給付額の推移に関するグラフ等も読み取りながら、学習する。 <発問例> みなさんがお年寄りになったら、年金はどれくらいもらえるでしょうか？	□少子高齢化による社会保障制度の財源への影響について理解させる。 □社会保障制度には、「自助」・「共助」・「公助」という考え方があることを理解させる。
展開3	25分	【4 自助と民間保険】 ○以下の点について理解する。 ・「自助」の手段には様々あり、「自助」の一つの手段である「民間保険」は、「社会保険」と同じ「保険」の仕組みを使っていること ・「社会保険」と「民間保険」の違い ・「民間保険」の種類と役割 ・社会保障制度の持続可能性を確保するために、「自助」・「共助」・「公助」を適切に組み合わせていくことも考える必要があること ☆「参考資料【資料3】・【資料4】」も確認しながら、上記「○」の内容について学習する。 <発問例> 民間の保険はどのような役割を果たしているのでしょうか？ 課題 皆さんは、持続可能な社会保障制度を形成する上で、「自助」・「共助」・「公助」をどのような割合で組み合わせることが望ましいと思いますか。また、なぜそのような割合が望ましいと考えたのですか。「老後の生活費の準備」をイメージして考えてみましょう。 ☆上記の課題について、グループやクラスディスカッションを通じて、意見に相違があることも理解し、自らの意見を積極的に発表する。 <発問例> どのような考え方が良いか話し合ってみましょう。	□「自助」の一つの手段である「民間保険」の仕組み・役割等について理解させる。 □「自助」・「共助」・「公助」を適切に組み合わせていくことの必要性について理解させる。 □「自助」・「共助」・「公助」をどのような割合で組み合わせることが望ましいか、また、その理由について、「老後の生活の準備」をイメージしながら考えさせる。 □参考情報として、「自助」・「共助」・「公助」の組み合わせ方についてのアンケート調査結果を説明する。
まとめ	5分	○将来の社会を創る世代として、持続可能な社会保障制度の在り方について課題意識を持ち続ける必要があることを理解する。 ☆授業後に、課題についてのレポートを提出させる。	□社会保障制度は、主権者が身に付けるべき知識の一つであることを理解させる。

本教材は、生命保険協会が社会保障・保険教育教材に関する検討会を開催し、高等学校の先生や文部科学省・厚生労働省のご意見を伺いながら、作成いたしました。

社会保障・保険教育教材に関する検討会

【委員】

(高等学校)

梶ヶ谷 穰	昭和音楽大学・短期大学部（元神奈川県立海老名高等学校）
三野 直子	東京都立竹早高等学校
宮崎 三喜男	東京都立国際高等学校

(中学校)

石本 貞衡	練馬区立大泉中学校
種藤 博	大田区立南六郷中学校
仲村 秀樹	江東区立東陽中学校

(関係者)

森 和茂	生命保険協会理事・事務局長【座長】
------	-------------------

【オブザーバー】

文部科学省
厚生労働省
生命保険文化センター

【事務局】

生命保険協会

高等学校公民科向け教材

社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！

教材活用マニュアル（教師用引き）

平成29年2月発行

制作・発行 一般社団法人生命保険協会

〒100-0005東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル3階

TEL03-3286-2693 FAX03-3201-6713 URL <http://www.seiho.or.jp/>